

「フィランソロピーの新たなフロンティアと助成財団の役割」 (概要)

平成25年6月7日、公益認定等委員会では、一時帰国中の米国ジョーンズ・ホプキンス大学市民社会研究所国際フィランソロピー・フェローの小林立明氏を講師に招き、「フィランソロピーの新たなフロンティアと助成財団の役割」と題して、委員有志及び事務局職員を対象とした部内セミナーを開催しました。講師の御厚意により、当日のプレゼンテーション用資料と当日の発表概要を掲載いたします。

なお、このうち概要は、講師の校閲は経ていますが、職員向けの講演内容を事務局の文責により取りまとめたものです。（講師略歴は末尾を参照してください。）また、掲載のプレゼンテーション用資料及び発表概要は、事務局の見解を示したものではありません。

【スライド概要】

1. 「フィランソロピーのフロンティア」登場の背景

主要先進国では、1980年代以降、財政赤字の拡大に伴い、政府支出が削減され、行政サービスの外部委託化が進みました。これを補填する形で、非営利セクターが発展していきます。当初、非営利セクターは、寄付や補助金から事業サービス収入へと収入源をシフトさせていき、これに伴い、経営を高度化させるとともに、多様な寄付金の調達手法を開発してきました。さらに、彼らは、「非営利の限界」を克服し、経営の安定と事業の影響力拡大に向け、規模拡大（スケールアップ）や、非営利から社会的企業への移行を模索するようになっていきます。これに伴い、政府も、非営利の基盤整備や、さらには社会的企業を促進するための新たな法人格の制度の導入などを進めていきます。

また、企業も社会的貢献から、より本業に即して社会に貢献しようと言うCSV（社会的共有価値の創造）などの新たな動きを開始します。このように、非営利の中に営利的手法を取り入れることで社会的な問題を解決しようという動きが、「フィランソロピーのフロンティア」登場の背景となります。

2. 「フィランソロピーの新たなフロンティア」とは

社会的な問題を営利と非営利を融合した形で解決していこうとする動きの中から、「フィランソロピーの新たなフロンティア」が登場してきます。そこでは、フィランソロピーは「社会的、環境的目的に向けて、民間資源を積極的に動員する」とことと再定義されます。新たな定義においては、従来、フィランソロピーの中心であった「非営利」という概念が取り除かれていることに注意してください。

伝統的フィランソロピーの下では、支援主体は助成財団や個人であり、支援手法はグラント・メイキングや寄付であり、支援対象は非営利団体でした。一方、

フィランソロピーのフロンティアの下での支援主体は、「社会的インパクト投資家、銀行、企業、コミュニティ開発金融機関」であり、支援手法は「社会的インパクト投資、マイクロファイナンス、コミュニティ開発金融、企業の社会貢献」となっており、支援対象は「社会的企業、マイクロファイナンス団体、コミュニティ・ビジネス団体」と広がっています。

3. 「新たな時代の助成財団の課題」

では、「フィランソロピーの新たなフロンティア」において、助成財団はどのような役割を果たすことができるのでしょうか。伝統的な助成財団のアプローチでは「手法」、「対象」、「アプローチ」、「資金」という4つの側面で課題に直面することになります。

「手法」面では、グラント・メイキングが中心となるために、投融資による規模の拡大が望めません。「対象」面では、非営利団体が中心となり、営利団体は除外されてしまいます。「アプローチ」面では、モデル形成とキャパシティ・ビルディングが中心であって、規模を拡大することによる社会的インパクトの拡大は一般的ではありません。「資金」面では、支援規模が小さいままです。

4. 「課題解決に向けた4つのモデル」

上記の課題に対処するために、欧米の助成財団は、4つのモデルを開発してきました。「ベンチャー・フィランソロピー」モデルは、ベンチャー・フィランソロピーという手法を活用することで、社会的企業を支援していきます。「触媒型フィランソロピー」モデルは、セクターを超えた協働を組織します。これにより、民間資金をフィランソロピーに誘導することが可能となります。「基盤整備」モデルは、社会的インパクト投資が持続可能な「産業」として成立するよう、その基盤を整備していこうというモデルです。最後に「投資」モデルは、財団の資産をプログラム関連投資、ミッション関連投資、社会的責任投資などに活用することで、社会的企業や社会的インパクト投資を支援していこうというものです。

5. 「基盤整備」モデル

「基盤整備」モデルの事例として、ロックフェラー財団が挙げられます。ロックフェラー財団は、2007年に「社会的インパクト投資パワーの活用」イニシャチブを立ち上げ、以来、社会的インパクト投資の基盤整備に積極的に取り組んでいます。

6. ロックフェラー財団イニシャチブのロジック・モデル

ロックフェラー財団の「基盤整備」モデルにおけるロジック・モデルは、「民間投資」と「政府関与」を拡大することで、「社会的インパクト投資産業の自律化」を促そうとする点にあります。ロックフェラー財団は、「民間投資」拡大のために、取引費用を縮減するための様々な指標開発や新たなマーケットの開発に取り組んでいます。また、「政府関与」拡大のために、様々な政策提言やモデル形成を行うことで、政府が関与するリスクを縮減し、政府が参加しやすくなるような合意形成を目指しています。

7. 新たなソーシャル・ファイナンスの仕組みへ

では、このような「フィランソロピーの新たなフロンティア」が目指しているのは、どのような社会なのでしょう。そこでは、NPO、協同組合、企業などの様々なアクターが、社会的企業として、営利・非営利双方のアプローチにより社会的な問題に取り組んでいきます。彼らは、従来の収入源である社会的サービス市場からのサービス収入や、政府・財団などからの収入で活動を行います。同時に、新たに創出される「ソーシャル・ファイナンス市場」を通じて、規模拡大（スケールアップ）のための資金を調達していきます。この「ソーシャル・ファイナンス市場」では、「社会的インパクト投資仲介団体」、「クラウド・ファンディング・プラットフォーム」、「社会的インパクト債権」、「社会的証券取引所」などの新たな仕組みが考えられています。これにより、社会的企業は、さらなるイノベーションやインパクト、およびスケール・アップ（規模の拡大）と財政的自律を行うことが可能になります。

8. 「フィランソロピーの新たなフロンティア」領域における助成財団のユニークな役割

では、ソーシャル・ファイナンス市場が成立した後に、助成財団は、どのような役割を担うことになるのでしょうか。既に説明したとおり、助成財団は、4つのモデルを通じて、「フィランソロピーのフロンティア」領域に積極的に関与することができます。これに加えて、助成財団は、政策提言、モデル形成、セクター間の協働によって「政府の失敗」を、リスク低減、基盤整備、市場の介入によって「市場の失敗」を、キャパシティ・ビルディングやアジェンダの設定によって「NPOの失敗」を、それぞれ補完する役割を果たすことが期待されています。

9. 日本での発展に向けて

それでは、現在、欧米で進行しつつある「フィランソロピーのフロンティア」を、日本でさらに発展させていくためには、どうすればよいのでしょうか。

様々な論点が考えられますが、まず、「非営利セクターのスケールアップをどのように促進するのか」が挙げられます。寄付、寄付調達手法、政府の支援手法等を考えなくてははいけません。次に、「営利・非営利のハイブリッド化をどのよ

うに制度化するのか」です。社会的企業やコミュニティ・ビジネスの法人格を確立し、営利も是とする非営利と営利のハイブリッド団体や事業連合体の取扱いを検討する必要があります。3つめは「非営利セクターの革新的なモデルの開発をどのように促進するか」。そして4つめは、「資金の供給者をどのように拡大していくか」です。クラウド・ファンディング、オンライン寄付プラットフォーム、市民ファンド等の多様な資金仲介団体を育成していく必要があるでしょう。5つめは「日本的公益セクターをどのような形で設計するか」です。アメリカのモデルをそっくりそのまま日本に導入する前に、今まで培われてきた日本の公益セクターの文化的、歴的側面を十分理解した上で、同セクターをさらに発展させていく必要があるでしょう。

(編集責任・公益認定等委員会事務局)

<講師略歴>

東京大学教養学科相関社会科学専攻を卒業後、独立行政法人国際交流基金において、アジア太平洋の知的交流・市民交流や事業の企画評価等に従事。在韩国日本大使館、ニューヨーク日本文化センター勤務等を経て、国際交流基金を退職。ペンシルヴァニア大学NPO/NGO指導者育成課程修士を取得後、平成24年9月から、ジョーンズ・ホプキンス大学市民社会研究所国際フィランソロピー・フェローとして「フィランソロピーの新たなフロンティア領域における助成財団の役割」をテーマに調査・研究中

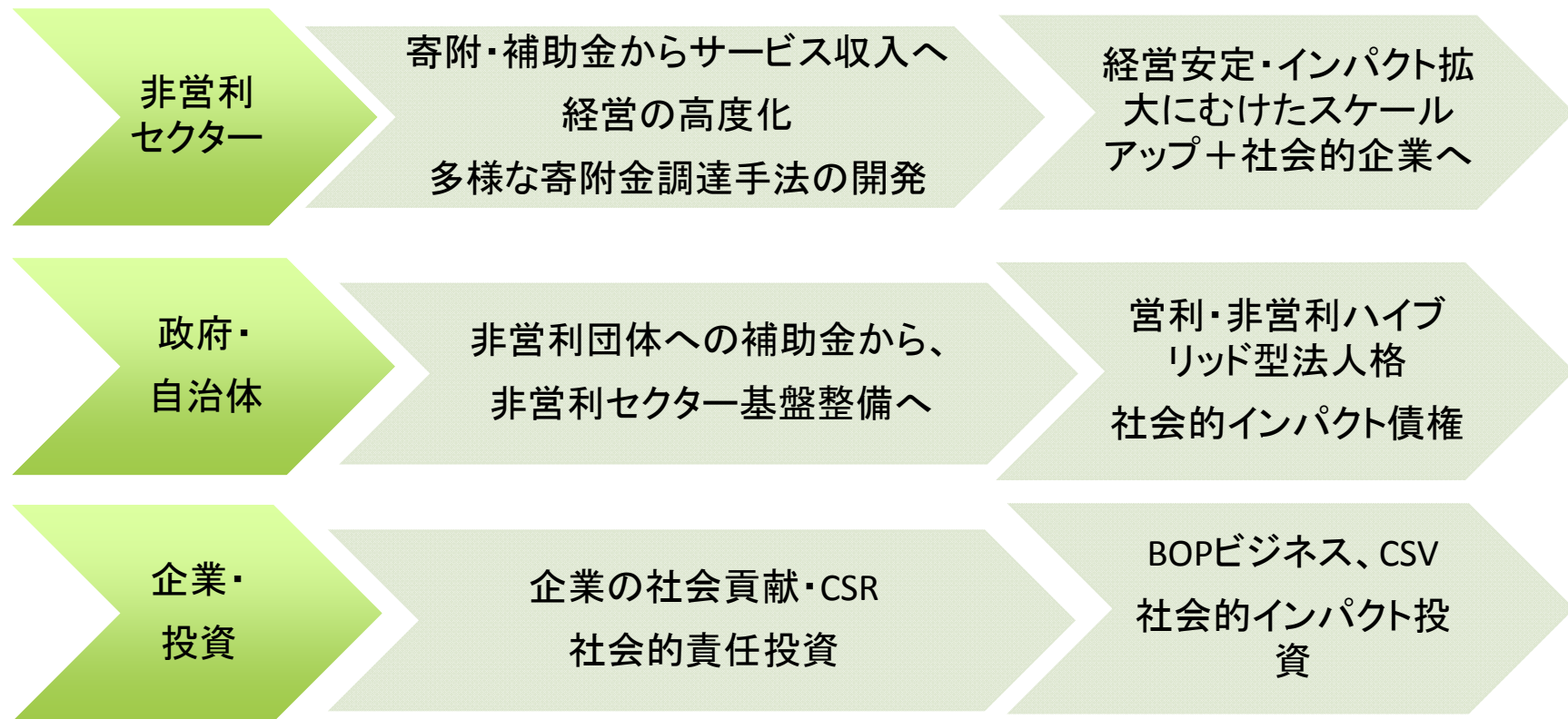
「フィランソロピーの新たなフロンティア」 と助成財団の役割

ジョンズ・ホプキンス大学市民社会研究所
国際フィランソロピー・フェロー 小林立明

2013年6月7日
内閣府公益認定等委員会プレゼンテーション

「フィランソロピーのフロンティア」登場の背景

主要先進諸国における財政赤字の拡大に伴う政府支出の削減とサービスの外部委託化＋非営利セクターの発展



「非営利の限界」問題をいかに打破し、他セクターとの協働を促進するか。
(利益を構成員で分配出来ないため、株式等の発行を通じた資金調達による事業のスケールアップが困難。)

「フィランソロピーの新たなフロンティア」とは

「フィランソロピー」の再定義：
社会的、環境的目的に向けた、民間資源の動員

伝統的フィランソロピー

フィランソロピーのフロンティア

支援
主体

助成財団
個人

社会的インパクト投資家
銀行、企業、コミュニティ開発金融機関

支援
手法

グラント・メイ
キング、寄附

社会的インパクト投資、
マイクロファイナンス
コミュニティ開発金融、企業の社会貢献

支援
対象

非営利団体

社会的企業
マイクロファイナンス団体
コミュニティ・ビジネス団体

新たな時代の助成財団の課題

「フィランソロピーの新たなフロンティア」領域において、助成財団は、以下のような限界に直面。

グラント・メイキング中心。
(投融資によるスケール・アップは一般的ではない。)

非営利団体中心。
(社会的企業やマイクロファイナンス団体などの営利団体は一般的な対象ではない。)

手法

対象

課題

アプローチ

資金

モデル形成とキャパシティ・ビルディングが中心。
(スケール・アップを通じた社会的インパクトの拡大は一般的ではない。)

支援規模が小さい。
(銀行・インパクト投資団体と比較し、資産規模も支援資金規模も小さい。)

課題解決に向けた4つのモデル

「フィランソロピーの新たなフロンティア」時代において、助成財団が取りうる4つのモデル

- ベンチャー・フィランソロピーの手法を活用して、社会的企業を支援

ベンチャー・
フィランソロピー

- 触媒型フィランソロピーの手法を活用してセクターを超えた協働を組織。これにより、民間資金をフィランソロピーに誘導。

触媒型
フィランソロピー

4モデル

基盤整備

- 社会的インパクト投資が持続可能な「産業」として成立するよう、基盤を整備。

投資

- 財団資産を、プログラム関連投資、ミッション関連投資、社会的責任投資に活用することを通じて社会的企業や社会的インパクト投資を支援。

「基盤整備」モデル

ロックフェラー財団は、2007年に「社会的インパクト投資パワーの活用」イニシャチブを立ち上げ、社会的インパクト投資の基盤整備に積極的に取り組んでいる。

新規市場開拓

- シンガポール社会的証券取引所開設
- ケニヤ社会的証券取引所開設

新たな資金調達手法

- インパクトアセット(ドナー・アドバイズド・ファンド+インパクト投資)モデル
- ノンプロフィット・ファイナンス・ファンドのSEGUE(持続可能な資本強化グラント)モデル

モデル形成

- アキュメン・ファンド設立支援(2001)

政策研究

- ハーバード大学社会的インパクト投資研究コラボラティブ
- J. P. モーガンの社会的インパクト投資マーケット動向調査

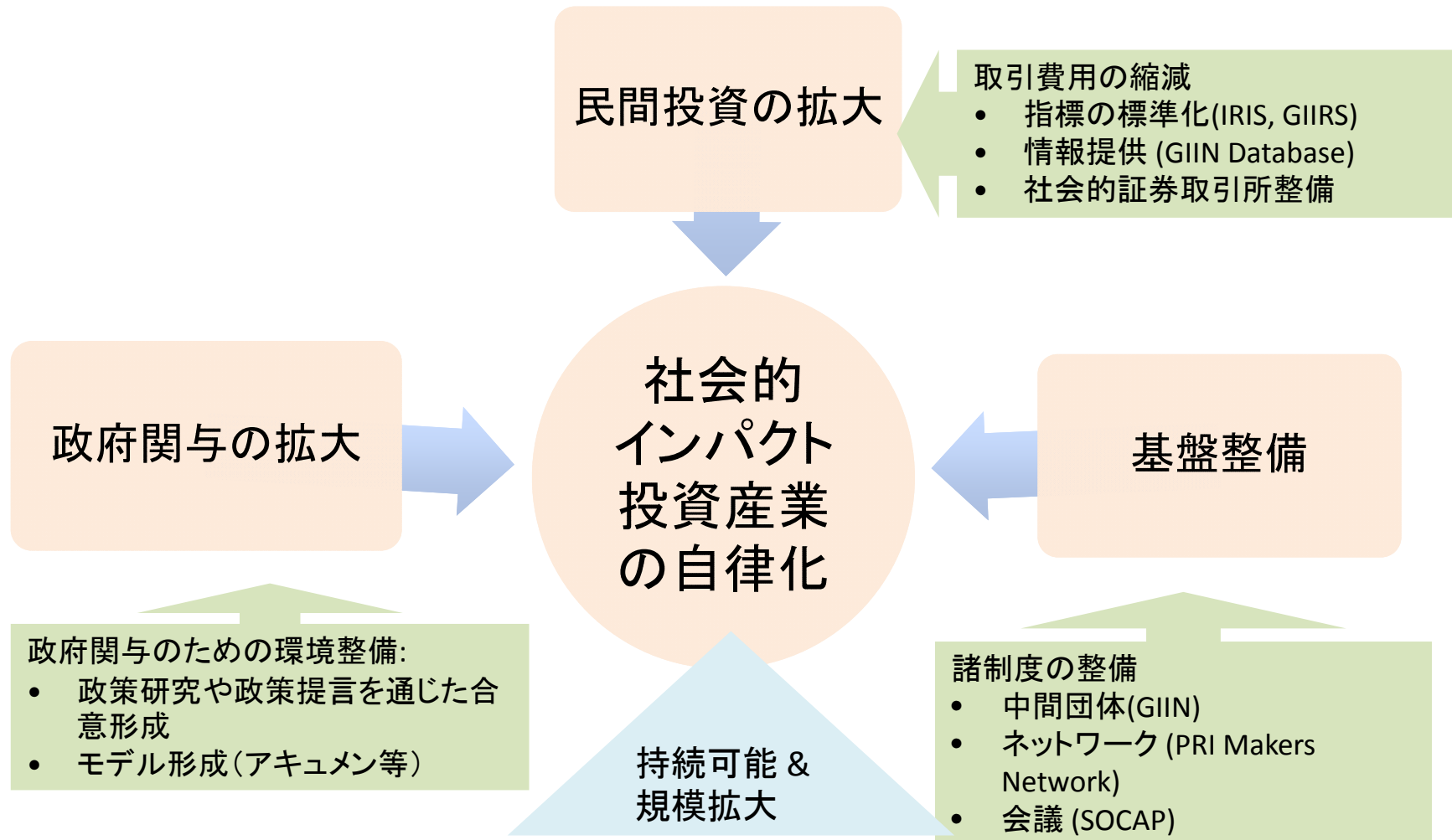
各種指標の開発

- GIIRS (グローバル・インパクト投資レーティング・システム)
- IRIS (インパクト報告&投資スタンダード)

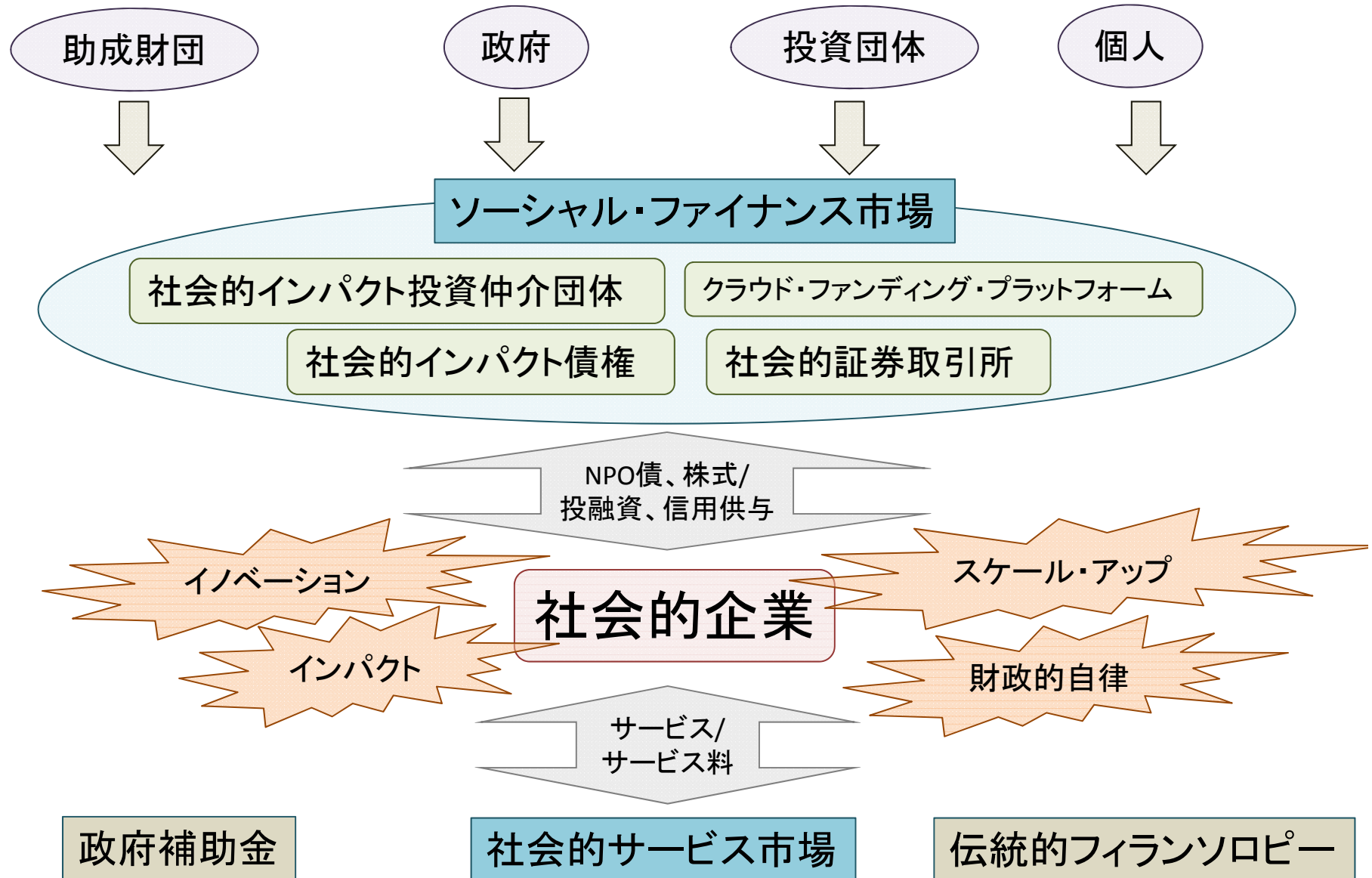
ネットワーキング／ 中間団体育成

- GIIN (グローバル・インパクト投資ネットワーク)
- SOCAP (ソーシャル・キャピタル市場会議)

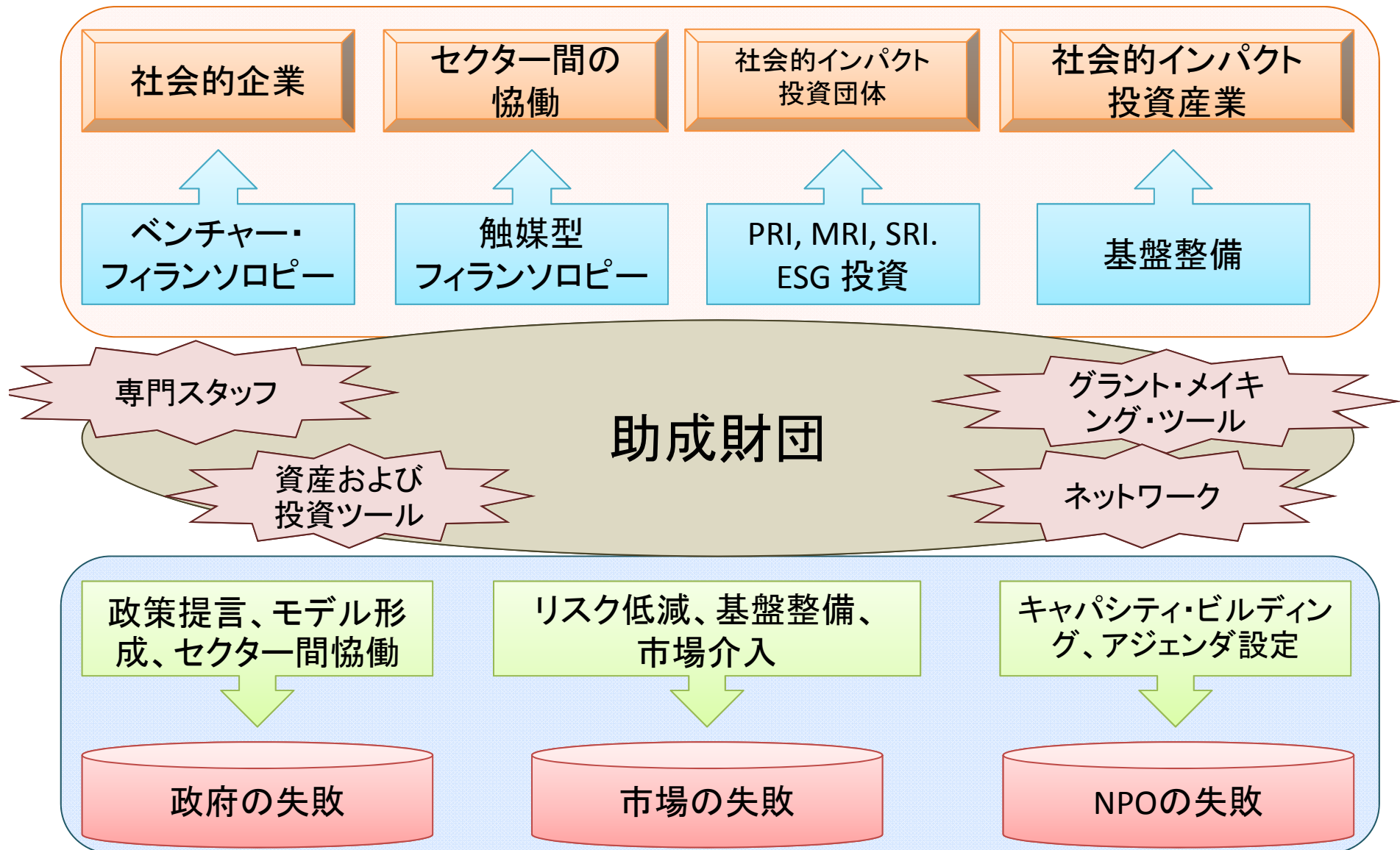
ロックフェラー財団イニシャチブのロジック・モデル



新たなソーシャル・ファイナンスの仕組みへ



「フィランソロピーの新たなフロンティア」領域における 助成財団のユニークな役割



日本での発展に向けて

(主要論点)

- 非営利セクターのスケールアップをどのように促進するのか。
 - 寄附、寄附調達手法(ファンドレイザー、ドナー・アドバイズド・ファンド、プランド・ギビング他)、政府支援手法等
- 営利・非営利のハイブリッド化をどのように制度化するのか
 - 社会的企業やコミュニティ・ビジネスの法人格、非営利+営利のハイブリッド団体や事業連合体の取り扱い等
- 非営利セクターの革新的なモデルの開発をどのように促進するのか。
 - 事業ビジネス・モデル、資金調達モデル、企業との共同モデル等
- 資金の供給者をどのように拡大していくのか。
 - 助成財団セクターの拡大、多様な資金仲介団体の育成(クラウド・ファンディング、オンライン寄附プラットフォーム、モバイル寄附プラットフォーム、市民ファンド等)、寄附信託、NPOバンク等
- 日本的公益セクターをどのような形で設計するのか

ご清聴ありがとうございました!

©Tatsuaki Kobayashi (June 2013)

All rights reserved

Contact: [tatsuaki.kobayashi\(アット\)gmail.com](mailto:tatsuaki.kobayashi@gmail.com)

(ご意見・ご質問等はアットの部分に@を入れてメールをお送りください。)